

平成 24 年度（2012 年度）

第 52 回大会

男子優勝：札幌日大 女子優勝：札幌日大

【全道大会寸評】

第 52 回となる北海道テニス選手権大会は、6 月 13 日から 15 日の 3 日間の日程で、釧路市民テニスコートで開催されました。

12 日の公式練習と開会式は天候に恵まれましたが、大会期間中を通して低い気温の日が続き、選手が期待通りのプレーができるか心配されましたが、結果的にはどの試合も熱戦が繰り広げられ、試合の内容的にはとても熱い大会となりました。

今大会を通して、当番校の釧路湖陵高校の教職員の方々や生徒のみなさんをはじめ、高体連釧路支部、釧路テニス協会、その他多くの方々のご尽力のおかげで、素晴らしい大会になりましたことを、心から感謝申し上げます。

男子団体戦は 4 年連続で札幌日本大学高校が優勝し、女子団体戦は昨年に引き続き札幌日本大学高校が 2 年連続の優勝となりました。今年の札幌日本大学高校は、男女ともに札幌支部大会で準優勝という結果に甘んじましたが、全道大会までの短い期間に弱点の強化に力を入れ、今大会で見事に優勝を手にしました。

全国大会でも十分活躍が期待できると思われます。

男子ダブルスは力が均衡し、1 回戦から白熱した試合が続き、第 5 シードの村田・山本組（札幌藻岩）が接戦を制して優勝し、準優勝には村上・伊地知組（旭川高専）が食い込みました。女子ダブルスも力が接近していましたが、第 4 シードの丹野・平野組（札幌日大）が実力を発揮し優勝しました。

男子シングルスは 1 年生で第 1 シードの池添克哉が決勝で、接戦の末第 2 シードで昨年優勝の村上幹（旭川高専）を下し優勝を成し遂げました。女子シングルスは第 1 シードの寺林詩織（旭川実業）実力を発揮し圧勝しました。

また、男子では函館支部から、女子では帯広支部から全国大会へ駒を進める選手が出るなど、道内各支部の選手の力の向上が感じられた大会となりました。

以上、各選手の全国高校総体での活躍を期待したいと思います。

【全国大会】

北信越総体テニス競技は、南魚沼大原運動公園テニスコート、長岡市希望ヶ丘テニス場の2会場で行われ、高校生らしい澁刺としたプレーが展開された。

男子団体戦では、札幌日大が1回戦で実力を発揮、秋田工業に3-0と快勝した。2回戦の宮崎日大との対戦では、ダブルス若松・高木組は終始接戦で十分に勝つチャンスはあったが、5-8で惜敗した。続くシングルスNO.1の池添は1年生ながら北海道大会を優勝した実力を十分に発揮、安定したストロークを武器に、完璧な試合を展開8-0で勝利した。勝負のかかったNO.2中野渡は前半やや受け身になり1-5とリードを奪われた。この時点でナイター照明のあるコートへの移動となったが、ここから中野渡の集中力が高まり、また相手の配球を読んだ上での作戦も冴えわたり6-7まで追いつけた。残念ながら6-8で敗退、札幌日大はベスト16進出にあと一歩届かなかったが、力を出し尽くした素晴らしい試合であった。女子団体戦では、札幌日大が2回戦で地元の新潟第一と対戦した。ダブルス中田・北村組は中盤までリードを奪う展開であったが、チャンスボレーのミスなどで流れが変わり6-8で惜敗した。シングルスNO.2丹野は実力通り相手を圧倒8-3で勝利したが、NO.1の平野は中盤までは競ったが、後半は相手の上手い配球に突き放され4-8で敗退、男子同様ベスト16は果たせなかった。

個人戦では、女子シングルスで寺林（旭川実業）が、1回戦で岡山学芸館の選手に前半硬さがみられ苦しみながらも8-4で勝利、続く2回戦では湘南工大付属（神奈川）の選手に、本来の持ち前のショットが冴え8-5と勝利した。3回戦ではベスト4に入った京都外大西の選手に前半は競ったが中盤の大事なポイントを落としたのが響き、3-8で敗退、ベスト32となった。その他はすべて1回戦敗退となったが、1、2年生の出場者が多く、今後の活躍に期待したい。

優勝のよろこび

札幌日本大学高等学校 主将 若松 健太郎

僕たち札幌日本大学高等学校テニス部は、今年、北海道高等学校テニス選手権大会で4連覇を達成した。優勝が決まった瞬間、今まで味わったことのない喜びを感じた。相手は札幌藻岩高等学校で、札幌支部大会で1-2で負けている相手だった。

藻岩高校に負けてから、「なぜ負けたのか。」「何ができていなかったのか。」を真剣に考えて、自分たちに足りないところをたくさん練習した。短い期間だったが必死に練習して「次は絶対勝てる。」「大丈夫だ。」と自信をつけて今回の全道大会を迎えた。

決勝ではものすごい緊張感が続いていたが、その中で自分たち本来の力を出してプレーできたのは、必死に応援してくれていた仲間、遠くから応援に来てくれた両親、ベンチで見守ってくれた先生の支えがあったからであり、まさにチーム全員で掴んだ優勝だった。これまでサポートしてくれたすべての人たちに心から感謝したい。

これから後輩たちも頑張って優勝を続け、いつか札幌藻岩高等学校の16連覇を超えてもらいたい。

優勝のよろこび 札幌日本大学高等学校 主将 中田 侑奈

私たち札幌日大高校テニス部は、6月12日から15日にかけて行われた北海道高等学校テニス選手権大会に出場し、2年連続で優勝を果たすことができました。しかし、この大会の前に行われた札幌支部大会では札幌清田高校に惜敗し、全道大会で優勝できるかとても不安でした。支部大会が終わってから全道大会までの練習は、今までよりもすごく集中力があり、一人一人の意識の高さやチーム全体の雰囲気も良くなっていきました。

全道大会の決勝は、支部大会の決勝で試合をした札幌清田高校とでした。支部大会では負けているので、チーム全員が「絶対に勝つ！」という気持ちがとても強かったのです。緊張感もありましたが、自分たちの持っている力を発揮して2-0で快勝することができました。優勝が決まった瞬間はとても嬉しかったです。

最後に、3年間ご指導くださった我妻先生や応援してくださった方々に大変感謝しています。本当にありがとうございました。来年も力を発揮して全道優勝し、全国大会でよい結果を残せるよう頑張りたいです。

全国高校総体 [第102回全国高等学校テニス選手権大会] 新潟県
「君は今、希望とともに緑の大地をかけぬける」2012 北信越かがやき総体

8月1日～8日 南魚沼大原運動公園テニスコート
長岡市希望ヶ丘テニス場

男子 個人戦シングルス 優勝 : 後藤 翔太郎 (三重・四日市工)
女子 個人戦シングルス 優勝 : 林 恵里奈 (福井・仁愛女子)